

北極渡り鳥イニシアティブ優先種コクガン・カリガネの保全に向けた共同調査と普及啓発

活動地域 中国、ロシア、北海道、宮城県

つづける助成

3年目

調査研究

発信器追跡個体 11羽

普及啓発絵本配布施設数 52施設

今年度計画の達成度 100%

全体計画の達成度 100%



追跡用の発信器を装着したカリガネ(右)

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

ウクライナ情勢を受けて、共同研究をこれまで実施してきたロシア科学アカデミーの研究者との連携が難しくなった。

■ 工夫した点

発信器追跡により新規発見された中国、ロシアの生息地における調査では、調査範囲を追跡結果をもとに的確に絞り込むことで、効率的な調査を実施することができた。

課題

コクガン、カリガネは東アジア地域で優先して保全すべき渡り鳥に指定されているが、渡りルートが解明されておらず、直面している脅威について知見が不足している。

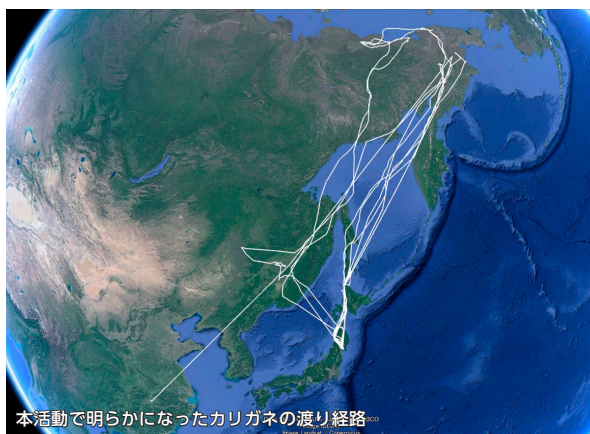
目標

コクガン、カリガネを発信器により追跡することで両種の渡りルート及び重要な生息地を解明し、東アジアの重要生息地での保全に向けた国際的な連携体制を構築する。

活動内容と成果

これまで追跡したコクガン、カリガネの渡りルートに関する知見をもとに、新たに明らかになった中継地(ロシア)、越冬地(中国)での調査を通して生息状況を明らかにした。

2023年1月には米中韓日のガン類研究者らと専門家会議を実施し、コクガン保全管理計画の進捗報告とカリガネ保全管理に向けた日中共同研究の提案を実施した。さらに同月、国際シンポジウム「東アジアのガン類の保全管理に向けて」の主催者グループとして、コクガン・カリガネの研究成果を発表するとともに、絵本「雁の道をたずねて」の朗読会を開催した。



本活動で明らかになったカリガネの渡り経路

全助成期間の活動を振り返って

3年間のプロジェクトを通して、コクガン29羽、カリガネ11羽の追跡を実施することができ、渡りルート、生息地の解明が大きく進んだ。2、3年目には新たな生息地での現地調査を実施したことで、両種の渡り経路全体の生息状況の理解が飛躍的に進んだ。

これらの成果を普及啓発教材(絵本)やシンポジウムで発信することで、市民の関心を高めることができた。さらには国際的なネットワークも構築することができた。



絵本「雁の道をたずねて」の朗読会の様子

〒989-6315
宮城県大崎市三本木新沼字二又159-1
電話：090-7494-2847
E-mail：saway1217@yahoo.co.jp
HP：http://shibalabo.eco.cocan.jp/goose/index.htm



今後の展望

これまで得られた知見をもとに、国内外での活動を強化する。国内では、両種の生息地を擁する自治体に対して研究成果のフィードバック、保全に向けた提案を実施するとともに、市民への普及啓発を強化する。国外では、中国におけるコクガン・カリガネの生息状況を明らかにするため、生息候補地の絞り込みと現地調査を実施する。

